

「大阪府の新たな男女共同参画プラン」に関するアンケート

大阪府では、男女共同参画社会の実現をめざして、平成 14 年 4 月に「大阪府男女共同参画推進条例」を制定し、「おおさか男女共同参画プラン」(計画期間:平成 13 年度から平成 22 年度まで)、「おおさか男女共同参画プラン(2011-2015)」(計画期間:平成 23 年度から平成 27 年度まで)に基づき、男女共同参画施策を総合的に推進してまいりました。

今般、現行プランが次年度末で計画期間を満了することから、その後の社会情勢の変化の中で男女の意識や行動がどのように変化してきているのかを明らかにし、平成 28 年度から平成 32 年度までを計画期間とする新たな男女共同参画プラン策定の基礎資料とするため、アンケートを実施いたしますので、ぜひご協力の程よろしくお願いいたします。

【フェイスシート】 12 問

(属性質問 居住地域)

Q 1 あなたは、どちらにお住まいですか。(S A)

1. 大阪市域 (大阪市)
2. 三島地域 (吹田市、高槻市、茨木市、摂津市、島本町)
3. 豊能地域 (豊中市、池田市、箕面市、豊能町、能勢町)
4. 北河内地域 (守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)
5. 中河内地域 (八尾市、柏原市、東大阪市)
6. 南河内地域 (富田林市、河内長野市、松原市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村)
7. 泉北地域 (堺市、泉大津市、和泉市、高石市、忠岡町)
8. 泉南地域 (岸和田市、貝塚市、泉佐野市、泉南市、阪南市、熊取町、田尻町、岬町)

(属性質問 婚姻の有無)

Q 2 あなたは結婚(事実婚を含む)していますか。(S A)

※パートナー:事実婚、生活の本拠を共にする交際相手のこと

1. 未婚(→Q 3→Q 6)
2. 結婚している(配偶者・パートナーがいる)(→Q 3→Q 4→Q 6)
3. 結婚したが、離婚又は死別した(→Q 3→Q 6)

(属性質問 本人の職業)

Q 3 あなたの職業をお答えください。(S A)

1. 勤め人(正規社員・職員)
2. 勤め人(臨時・パート・アルバイト等非正規社員・職員)
3. 自営業主または家族従業員
4. 家事専業
5. 学生
6. 無職(家事専業を除く)
7. その他(具体的に)

(属性質問 配偶者・パートナーの職業)

Q 4 配偶者・パートナーの職業をお答えください。(S A)

1. 勤め人(正規社員・職員)
2. 勤め人(臨時・パート・アルバイト等非正規社員・職員)
3. 自営業主または家族従業員
4. 家事専業
5. 学生
6. 無職(家事専業を除く)
7. その他(具体的に)

(属性質問 配偶者・パートナーの年収)

Q 5 配偶者・パートナーの年間収入は、税込みでいくらでしたか。(S A)

1. 200 万円未満
2. 200 万円以上 400 万円未満
3. 400 万円以上 600 万円未満
4. 600 万円以上 800 万円未満
5. 800 万円以上 1,000 万円未満
6. 1,000 万円以上
7. わからない

(属性質問 子どもの有無数)

Q 6 あなたにはお子さんがいますか。(別居を含む)(S A)

1. 1 人(→Q 7)
2. 2 人(→Q 7)
3. 3 人(→Q 7)
4. 4 人以上(→Q 7)
5. 子どもはいない(→Q 8)

(属性質問 末子の年齢)

Q 7 一番下のお子さんは何歳ですか。お子さんがお一人の方はそのお子さんは何歳ですか。(別居を含む)(S A)

1. 3 歳未満
2. 3 歳以上就学前
3. 小学生
4. 中学生
5. 高校生
6. それ以上

(属性質問 要介護者の有無)

Q 8 あなたの世帯には、老親や病身者等介護や看護が必要な家族がいますか。(S A)

1. いる
2. いない

(属性質問 家族構成)

Q 9 あなたの家族構成は次のどれですか。(S A)

1. 1 人世帯
2. 一世代世帯(夫婦(事実婚含む)だけ)

3. 二世帯世帯（親と子）
4. 三世帯世帯（親と子と孫）
5. その他の世帯（具体的に

(属性質問 世帯年収)

Q10 昨年のあなたの世帯の年間収入は、税込みでいくらでしたか。(SA)

1. 200 万円未満
2. 200 万円以上 400 万円未満
3. 400 万円以上 600 万円未満
4. 600 万円以上 800 万円未満
5. 800 万円以上 1,000 万円未満
6. 1,000 万円以上
7. わからない

(属性質問 最終学歴)

Q 1 1 あなたが最後に通われた学校（中退を含む）はどれにあてはまりますか。在学中の方は、現在通学されている学校をお答えください。（S A）

1. 中学校
2. 高等学校、中学が入学資格の専修学校・各種学校
3. 短期大学、高等専門学校、高卒が入学資格の専修学校・各種学校
4. 4年制大学、大学院
5. その他（ ）

【アンケート本文】 2 2 問

(検証質問 性別役割分担意識の有無)

Q 1 2 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。(S A)

1. そのとおりだと思う (→Q 1 3)
2. どちらかといえばそう思う (→Q 1 3)
3. どちらかといえばそう思わない (→Q 1 4)
4. そうは思わない (→Q 1 4)

(検証質問 性別役割分担意識有の理由)

Q 1 3 そう思う理由を教えてください。(MA)

1. 日本の伝統・美德だと思うから
2. 性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから
3. 子どもの成長にとって良いと思うから
4. 個人的にそうありたいと思うから
5. その他 ()
6. 理由を考えたことはない

(検証質問 性別役割分担意識無の理由)

Q 1 4 そう思わない理由を教えてください。(MA)

1. 男女平等に反すると思うから
2. 女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとって損失だと思うから
3. 男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから
4. 少子高齢化により労働力が減少し、女性も仕事をする必要があると思うから
5. 一方的な考え方を押し付けるのは良くないと思うから
6. その他 ()
7. 理由を考えたことはない

(参考質問 今後の社会情勢の変化に対する興味関心)

Q 1 5 あなたは、人口減少、少子高齢化、労働力不足、社会保障問題等、今後の日本社会の情勢の変化に関する新聞記事やニュース等についてどの程度読んだり見たりしていますか。また、どのように感じていますか。あなたの状況や考えに最も近いものをお選びください。(S A)

- 1 よく読む(見る)し、不安に感じる
- 2 よく読む(見る)が、このままでもなんとかかなると思う
- 3 あまり読まない(見ない)が、不安に感じる
- 4 あまり読まない(見ない)が、このままでもなんとかかなると思う
- 5 その他 ()

(属性質問 主な家計支持者)

Q16 あなたの世帯の家計支持者(家計の担い手)はどなたですか。(SA)【属性質問Q③で「結婚している」を選んだ回答者のみ】

1. ほぼ自分(→Q17へ)
2. ほぼ配偶者・パートナー(→Q19へ)
3. 自分と配偶者・パートナーでほぼ半々(→Q19へ)
4. その他() (→Q19へ)

(属性質問 家計支持者の交替の可能性)

Q17 あなたの世帯では、世帯の家計支持者(家計の担い手)を今後あなたから配偶者・パートナーに交替することはできると思いますか。(SA)

1. できると思う(→Q19へ)
2. できないと思う(→Q18へ)

(検証質問 配偶者・パートナーを家計支持者にできない理由)

Q18 「できないと思う」を選んだ方にお伺いします。あなたができないと思う理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。

なお、各選択肢の冒頭の括弧内に、「(すべての方)」、「(配偶者・パートナーが働いている方)」、「(配偶者・パートナーが働いていない方)」とその選択肢が想定する対象者を記載していますので、回答の際の参考にしてください。(MA)

1. (すべての方) 自分自身が仕事のやりがい追求したい
2. (すべての方) 家族内での立場や世間体を考えると、男の自分が家計を支持すべき
3. (すべての方) 配偶者・パートナーとの関係が破たんした場合のことを考えると自分が家計支持者でなくなるのは不安
4. (すべての方) 配偶者・パートナーと既に家庭内での役割分担が出来上がってしまっている
5. (配偶者・パートナーが働いている方) 配偶者・パートナーの収入では家計を支持できない
6. (すべての方) 配偶者・パートナーが家計を支持するだけの仕事(総合職、管理職、専門職、正規社員等)につく／見つけるのは難しい
7. (配偶者・パートナーが働いている方) 配偶者・パートナーが家計を支持するだけの仕事(総合職、管理職、専門職、正規社員等)に就くと現在の家事の分担に支障をきたすおそれがある
8. (配偶者・パートナーが働いていない方) 配偶者・パートナーには家事(育児や介護等を含む)をしっかりやってもらいたい
9. (配偶者・パートナーが働いていない方) 配偶者・パートナー自身が働くことに乗り気でない
10. (配偶者・パートナーが働いていない方) 配偶者・パートナーが家計を支持するだけの仕事に就くのは体力的・精神的に難しいと思う
11. (すべての方) わからない【この選択肢を選んだ場合は重複選択不可とする】
12. (すべての方) その他()

（参考質問 平日１日の労働時間）

Q 1 9 労働時間について、平日と休日に分けておうかがいします。まず、平日についておうかがいします。通常、平日、１日のうちであなたが仕事（在宅就労を含む）に要する平均時間はどのくらいですか。通勤時間を含めてお答えください。（S A）

1. なし
2. ４時間未満
3. ４時間～６時間未満
4. ６時間～８時間未満
5. ８時間～１０時間未満
6. １０時間～１２時間未満
7. １２時間以上

（参考質問 休日１日の労働時間）

Q 2 0 休日（暦のうえの休日ではなく、あなたの勤務形態で「休日」とされている日）も仕事をされることがある場合、通常、休日、１日のうちであなたが仕事（在宅就労を含む）に要する平均時間は、どのくらいですか。通勤時間を含めてお答えください。なお、休日勤務が常態化しているといえない場合は、「なし」をお選びください。（S A）

1. なし
2. ４時間未満
3. ４時間～６時間未満
4. ６時間～８時間未満
5. ８時間～１０時間未満
6. １０時間～１２時間未満
7. １２時間以上

（検証質問 家事経験の有無）

Q 2 1 あなたは、結婚（事実婚を含む）前、自分で家事（育児や介護等を含む）をしていた時期がありましたか。（S A）【「結婚している」、「結婚したが、離婚又は死別した」を選んだ方のみ】

1. あった
2. なかった

（属性質問 平日の家事の実践）

Q 2 2 家事（育児や介護等を含む）の実践について、平日と休日に分けておうかがいします。まず、平日についておうかがいします。平日、あなたは、家事をしていますか。（S A）

1. まったくしない（→Q 2 4）
2. （少しでも）する（Q 2 3）

（属性質問 平日の家事従事時間）

Q 2 3 通常の場合、平日１日のうちであなたが家事（育児や介護等を含む）に要する平均時間はどのくらいですか。（S A）

1. ３０分未満

2. 30分～1時間未満
3. 1時間～2時間未満
4. 2時間～3時間未満
5. 3時間～4時間未満
6. 4時間～5時間未満
7. 5時間以上

（属性質問 休日の家事の実践）

Q24 休日の家事（育児や介護等を含む）の実践についておうかがいします。休日、あなたは、家事をしていますか。

1. まったくしない（→Q26）
2. （少しでも）する（Q25）

（属性質問 休日の家事従事時間）

Q25 通常の場合、休日1日のうちであなたが家事（育児や介護等を含む）に要する平均時間はどのくらいですか。（SA）

1. 30分未満
2. 30分～1時間未満
3. 1時間～2時間未満
4. 2時間～3時間未満
5. 3時間～4時間未満
6. 4時間～5時間未満
7. 5時間以上

（検証質問 家事をしない理由）

【Q22で「まったくしない」またはQ23で「30分未満」を選び、かつ、Q24で「まったくしない」またはQ25で「30分未満」を選んだ回答者】

Q26 平日、休日とも家事を「まったくしない」か家事に従事する時間が「30分未満」とお答えになった方におうかがいします。あなたが、家事（育児や介護等を含む）をしない理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。（MA）

1. 趣味や自分の個人的な楽しみ方を大切にしたいから
2. 家事をする気にならないから／面倒だから
3. 労働時間が長くて時間がないから（→Q27）
4. 家事のやり方がわからないから
5. 父親が家事をしていなかったから
6. 母親が自分に家事をさせることに積極的でなかったから
7. 男が家事をするのは世間体が悪いから
8. 祖父母や親兄弟姉妹等、他の家族が家事をしてくれるから
9. 家事の必要がないから（有料サービス（飲食店、コンビニエンスストア、クリーニング、ハウスクリーニング、ベビーシッター、老人ホーム等の施設、介護ヘルパー等）の利用等）
10. （配偶者・パートナーがいる方のみ）配偶者・パートナーが自発的にやってくれるから
11. （配偶者・パートナーがいる方のみ）配偶者・パートナーに愛情や思いやりが持てず家事を分担する気になれないから

12. (配偶者・パートナーがいる方のみ) 自分で家事をして、配偶者や家族に文句を言われた(言われる)から
13. その他 ()

(検証質問 労働時間を短縮できない理由)

Q 2 7 Q 2 6で「労働時間が長くて時間がないから」とお答えになった方におうかがいします。あなたが、労働時間を短縮できない理由は次のうちどれですか。あてはまるものをすべてお選びください。

(MA)

1. 職場の人員不足
2. 昇進や昇給、異動、人事評価で不利になるおそれがある
3. 職場の雰囲気が休んだり、早く帰ったりしにくい
4. 他社(他団体、他店、他校、他施設等)との競争に負けるおそれがある
5. 自己の能力不足
6. 仕事が好きだ／仕事が面白い／やりがい追求したい
7. その他 ()

(検証質問 男性が家事に参画するために必要な支援)

【Q 2 2で「まったくしない」またはQ 2 3で「30分未満」を選び、かつ、Q 2 4で「まったくしない」またはQ 2 5で「30分未満」を選んだ回答者】

Q 2 8 平日、休日とも家事を「まったくしない」か家事に従事する時間が「30分未満」とお答えになった方におうかがいします。

あなたは、どのようなきっかけや支援があれば、家事をするようになると思いますか。あてはまるものをすべてお選びください。(MA)

1. 家事をすることについての配偶者・パートナーの思いやり、励まし
2. 家事のスキルを学ぶ機会(家事、育児、介護等の体験・実習する講座等)
3. 家事に関して気軽に情報交換や相談できる男性の友人やネットワーク
4. 実際に仕事と家庭を両立している男性や企業の話や直接聞くこと
5. 自分自身の働き方を振り返り、今後のライフプランと家事、育児、介護等との関わりを考える機会
6. 職場が仕事と生活の両立を推進し、労働時間の短縮や柔軟な勤務制度(フレックスタイムや在宅勤務等)の導入等を進めること
7. その他 ()

(参考質問 家事能力の習得方法)

【Q 2 3で「30分～1時間未満」以上、または、Q 2 5で「30分～1時間未満」以上の家事従事時間を選んだ回答者】

Q 2 9 平日もしくは休日(またはその両方)に30分以上家事をするとお答えになった方におうかがいします。あなたはどのようにして家事(育児や介護等を含む)のやり方を学びましたか。あてはまるものをすべてお選びください。(MA)

1. 子どものころから家事を手伝ってきた／教わってきた／しつけられてきた
2. 学校の家庭科の授業で学んだ
3. 成人後、家族・友人等に教わった
4. 配偶者やパートナーに教わった
5. 本やテレビ、インターネット等で学んだ
6. 家事に関するイベントに参加したり、教室に通った
7. 自分自身で創意工夫してきた

8. その他（ ）

(検証質問 家事をする理由やきっかけ)

【Q23で「30分～1時間未満」以上、または、Q25で「30分～1時間未満」以上を選んだ回答者】
Q30 平日もしくは休日（またはその両方）に30分以上家事をするとお答えになった方におうかがいします。あなたが、家事（育児や介護等を含む）をするようになった理由やきっかけは何でしたか。あてはまるものをすべてお選びください。（MA）

1. ひとり暮らしを始めた
2. 父親が家事をしていた（いる）
3. 母親が自分に（親子コミュニケーションや教育、しつけ等のため）家事をさせるようにしてきた
4. 配偶者・パートナーに対する思いやり（自分が家事を分担することにより、配偶者・パートナーが仕事をしやすくする等）
5. 配偶者・パートナーと相談して家事の分担について決めた
6. 子どもが生まれた（乳幼児期子育てが開始した）
7. 子どもの環境が変化した（保育所や幼稚園に通い始めた、小中高校に進学した、クラブ活動を始めた、高校を卒業した等）
8. 親子のコミュニケーションや教育のため親子で一緒に家事をするようになった
9. 配偶者・パートナーの勤務形態が変化した（就職、異動、転職、退職等）
10. 自分の勤務形態が変化した（就職、異動、転職、退職等）
11. 配偶者・パートナーが入院したり、病気になった
12. 老親等の介護の必要が生じた
13. その他（ ）

(参考質問 家事分担に対する満足度)

Q31 あなたは、配偶者・パートナーとの家事の分担についてどのように感じていますか。ひとつお選びください。（SA）【属性質問Q2で「結婚している」を選んだ回答者のみ】

1. 自分は満足しており、配偶者・パートナーも満足していると思う
2. 自分は満足しているが、配偶者・パートナーは不満を感じていると思う
3. 自分は不満だが、配偶者・パートナーは満足していると思う
4. 自分は不満であり、配偶者・パートナーも不満を感じていると思う
5. わからない／どちらともいえない
6. その他（ ）

(検証質問 男性が家事、子育て、介護、地域活動などに参加するために必要な条件)

Q32 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。あなたの経験を踏まえてお答えください。（Oは3つまで）

1. 男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること
2. 男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加することについて、社会的評価を高めること
3. 夫婦、パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと
4. 女性の意識改革
5. 男性の意識改革
6. 労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
7. 小さいときから男性に家事や育児に関する教育をすること
8. 男性が子育てや介護、地域活動を行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること

- 9. 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
- 10. その他（具体的に ）
- 11. 特に必要ない

（自由意見）

Q 3 3 男女共同参画社会の実現にあたって、ご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

（F A）